

都市再生整備計画 事後評価原案 糸魚川駅北地区

令和4年3月

新潟県糸魚川市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県	市町村名	糸魚川市	地区名	糸魚川駅北地区		面積	21.8ha
交付期間	平成29年度～令和3年度	事後評価実施時期	令和3年度	交付対象事業費	522.4百万円	国費率	0.422	

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	案内看板(地域生活基盤施設)、観光交流センター拡充(高次都市施設 観光交流センター)					
		提案事業	-					
			事業名	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から削除した事業	基幹事業	にぎわい拠点施設(高次都市施設 観光交流センター)	関係者との合意形成に不測の時間を要し、本計画期間内での事業完了が不可能となったため、削除		「にぎわい拠点施設」で予定していた活動を「にぎわい創出広場(建物)」で実施するため、影響なし		
		提案事業	-	-		-		
	新たに追加した事業	基幹事業	まちなか駐車場(地域生活基盤施設)	にぎわい創出広場の整備と併せ、来街者の利便性を向上させ駅北地区の集客を高めるため、追加		指標1「まちなか歩行者数」、指標2「観光交流センター来館者数」を上方修正		
			にぎわい創出広場(「駅北広場キターレ」)(高次都市施設 地域交流センター)	地区の中心となる本町通り沿いの公共空地を活用し、大火の記憶伝承と誰もが気軽に集い、活動する場として整備するため、追加		指標1「まちなか歩行者数」、指標2「観光交流センター来館者数」を上方修正		
		提案事業	事業効果分析調査(事業活用調査)	社会資本総合整備計画(効果促進事業)から移行		影響なし		
			花いっぱい推進事業(まちづくり活動推進事業)	社会資本総合整備計画(効果促進事業)から移行		影響なし		
			にぎわい創出人材育成事業(まちづくり活動推進事業)	にぎわい創出等を担う人材不足から、その育成が急務のため追加		指標3「街づくり団体による地域活性化活動への参加者数」を上方修正		
交付期間の変更	当初	平成29年度～令和3年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-			
	変更	-	-		-			

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	まちなか歩行者数	人/日	240	H29	481	R3	-	122	×	あり	駅北広場キターレの開設や案内看板の設置等により新たな人の動きが見られるようになったが、新型コロナウイルスの感染流行に伴う外出自粛の影響とともに、令和元年夏以降道路工事が始まったことで、本町通りの歩行者数に影響を与えたものと考えられる。	-
										なし		
指標2	観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数	千人/年	280	H29	332	R3	-	285	△	あり	施設機能の拡充により、令和3年11月までの実績値は平成29年度を上回るまでに回復しているが、新型コロナウイルスの感染流行に伴う外出自粛の影響により目標を満たすに至っていない。	令和4年6月
										なし		
指標3	街づくり団体による地域活性化活動への参加者数	人/年	270	H29	560	R3	-	622	○	あり	大火をきっかけとした自治活動の活性化とともに、まちづくりシンポジウムの開催や駅北まちづくり戦略の策定を通じてまちづくり活動に対する機運が高まり、活動への参加者が増加している。	令和4年6月
										なし		

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	駅北広場キターレ来館者数	人/年	0	H28	/	/	-	14,810	/	/	駅北広場キターレを活動の場として市民等の新たな活動が生まれ、あわせてそのイベント等への参加者も増加している。	令和4年6月
その他の数値指標2	トワイライトエクスプレス入込人数	人/年	0	H28	/	/	-	14,900	/	/	トワイライトエクスプレス再現車両の展示により、市内外からの誘客が図られている。	令和4年6月
その他の数値指標3	創業件数	件/5年	3	H28	/	/	-	12	/	/	地区内の創業件数の増加は、駅北地区のまちの活性化の状況を表すと考えられる。	令和4年6月

4) 定性的な効果 発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀街道などのまちの歴史や大型防火水槽などの大火の記録を記した解説板を設置することで、来街者のほか、市内小学生がまち歩きの総合学習や防災学習としても活用されている。 ・駅北広場キターレが開設され、施設運営者によるマルシェや子どもイベントのほか、地元野菜の販売などの市民の皆さんによる新たな活動も生まれている。夕方には、勉強する学生の姿もあり、これまでに見られなかった世代の人たちが見られるようになったとの声もいただいている。 ・また併設するシェアキッチンも、令和2年度47件の利用があり、これまでに2名が自身の店を開業している。 ・トワイライトエクスプレスでは、車両内で市内飲食店の食事を提供するなど、施設を活用した新たな取り組みも行っている。 ・まちなか駐車場は、駅北広場キターレを利用する際の駐車場として利用いただくほか、商店街への買い物客や駅北エリアでのイベント参加者等に利用いただいている。 				
5) 実施過程の評価	モニタリング	復興まちづくり計画評価委員会 被災者関係者アンケート	実施状況		今後の対応方針等
			都市再生整備計画に記載し、実施できた		-
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				
	住民参加 プロセス	住民との対話 愛称募集 駅北大火周年事業	都市再生整備計画に記載し、実施できた		今後も住民との対話の場を設け、住民と行政との協働を推進する。 周年事業は、大火の記憶と教訓を伝承するため、継続実施する。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	持続的なまちづくり 体制の構築	駅北復興まちづくり市民会議 駅北まちづくり会議 駅北デザインミーティング	都市再生整備計画に記載し、実施できた		駅北まちづくり戦略における公民連携の取り組みを推進する。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					

様式2-2 地区の概要

都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
【大目標】復興からの糸魚川駅北地区のにぎわいづくり 目標1: 回遊性を高めることによりまちなか全体を歩いて楽しめるにぎわいの創出を目指す 目標2: 市内外からの誘客を図るため、既存施設の拡充や、にぎわいを創出する広場など施設の整備を図る 目標3: 若者や子供世代が訪れたいくなるような施設整備と運営企画を目指し、ヒトづくりとマチづくりの「交流の場づくり」を図る	まちなか歩行者数	単位: 人/日	240	H29	481	R3	122	R3
	観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数	単位: 千人/年	280	H29	332	R3	285	R3
	街づくり団体による地域活性化活動への参加者数	単位: 人/年	270	H29	560	R3	622	R3



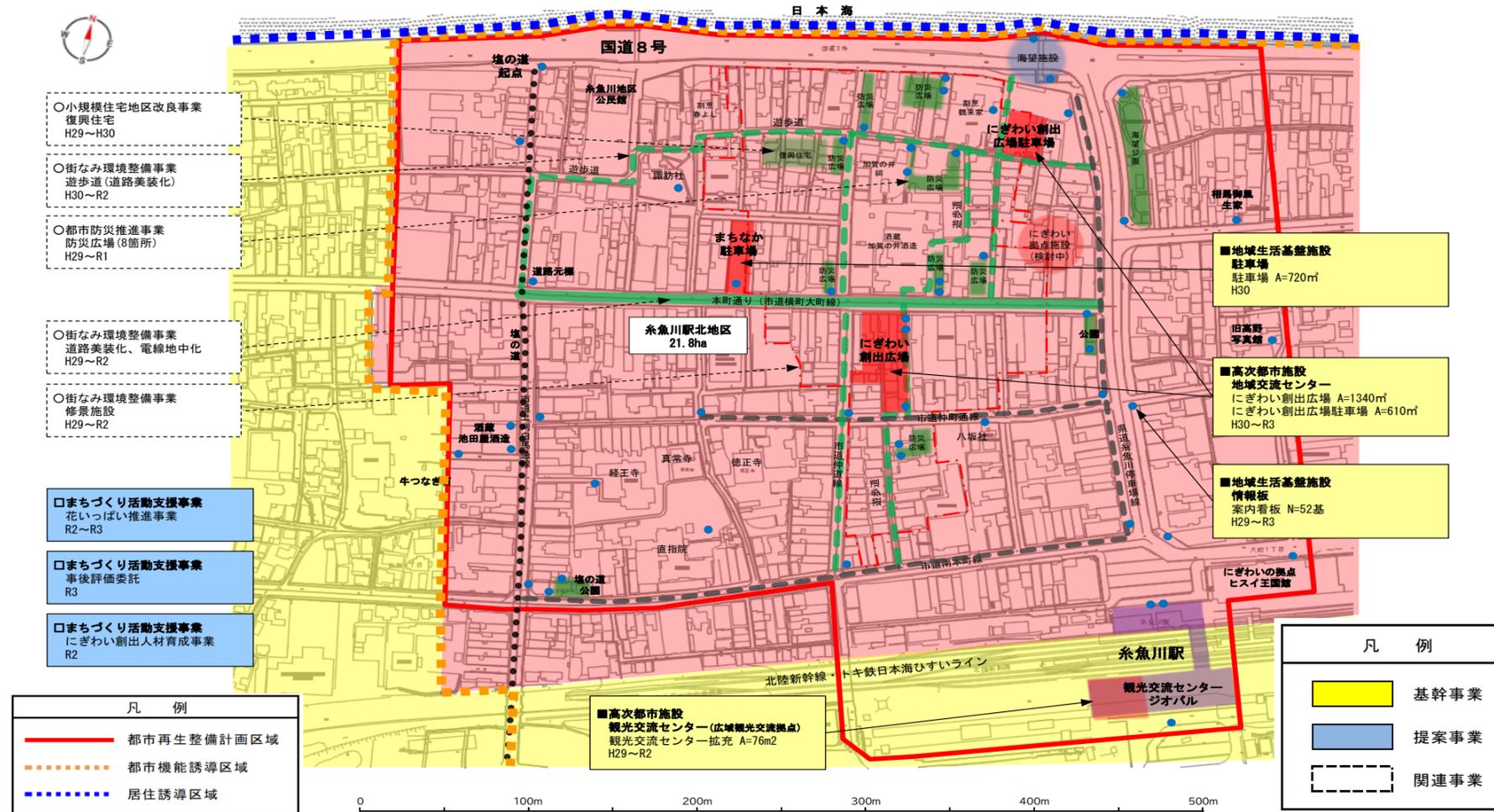
駅北広場キターレ



観光交流センター拡充



まちなか駐車場



案内看板



花いっぱい推進事業



にぎわい創出人材育成事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 案内看板の設置により、散策しながらまちを楽しむ仕掛けが生まれ、小学生の学習や来街者のまち歩きを促進することができた一方で、平日の歩行者数は減少している。 駅北広場キターレの開設により、市民等の新たな活動が生まれるとともにイベント等に参加する来街者が増えている。 また、各種イベントや高齢者を中心とした健康運動教室の開催、高校生が学習する様子などから、これまでに見られなかった世代の人たちがまちに見られるようになったとの声もいただいている。 大火をきっかけとした自治会活動の活性化とともに、まちづくりシンポジウムの開催や駅北まちづくり戦略の策定を通じてまちづくり活動に対する機運が高まり、市民が主体となった取り組みが増加している。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 若者や子育て世代がまちに増えることで、高齢者も含めた多様な世代が集い、交流し、安心して住み続けられる中心市街地の形成を目指し、子育て機能を有する施設の整備を推進する。 本町通り沿線における不燃化と雁木整備支援の継続。 駅北まちづくり戦略の推進により、まちづくりを担う人材の発掘と育成、また、より活動しやすい環境を行政が整え、公民連携の取り組みを推進する。